

協議概要 地域公共交通網形成計画策定について	
・アンケート調査結果について ・計画の方向性（計画素案）の検討について	
・アンケートの調査結果について	
委員 (利用者の代表)	アンケート対象地区に偏りはないのか。
事務局	人口分布に配慮しながら配布し、回答についても概ね配布と同じような分布になっている。
委員 (地域住民の代表)	地区別での集計結果は出ているのか。
事務局	地区別での集計結果は出ている。
委員 (地域住民の代表)	朝の通学・通勤時間帯だけでも亀岡駅直通のバスを通してほしい。
事務局	計画素案の中身の話になるので、次の議事で審議していただきたい。
委員 (利用者の代表)	スマホでバスの遅延情報等がみえる実例があるが、亀岡市でもできないか。
事務局	Google map でルート検索ができる。また遅延情報もバス事業者のバスナビゲーションシステムで実施している。
会長	検索する人に負担を掛けるようなシステムでは恐らく利用されない。その点を踏まえてバス事業者には協力してほしい。
委員 (一般旅客自動車運送事業者)	バス停に QR コードを設置する作業を行っている。QR コードをスマホに読ませるとバスの情報が見えるため、今後 PR したい。
委員 (地域住民の代表)	具体的な買い物先や通院・福祉・地域活動先を地域別で知りたい。
事務局	集計はできる。しかし今は集計を行っていないため、今後集計をしていく。
会長	地区別にするサンプル数が減るため信頼性は低くなるが、結果は出せる。
会長	高齢者だけではなく、免許不保持の若い人や家族に送迎してもらっている人たちも、公共交通による支援ができるようにする計画が必要である。また、現在の費用負担の中で最もよい運行方法を見つけていく必要がある。
委員 (地域住民の代表)	保津町で以前アンケートを取ったら、1 回の利用につき 500 円までなら負担しても良いという結果が出た。また運行本数が少ないという意見も出ており、運行本数が増えれば利用者数も増加すると考えられる。
事務局	アンケートでも同様な意見が多かったので、ニーズに対して公共交通がどこまで対応出来るのか、経費の問題や物理的に走行できるのかを含めて今後計画の中で検討していく。
会長	バスのダイヤと頻度は意味が違う。頻度は少なくとも、利用者にとって都合の良いダイヤを組むことでも大分良くなる。

・計画の方向性(計画素案)の検討について	
委員 (利用者の代表)	スクールバスの有効活用はできないのか。
事務局	市民の足を確保する施策の中に、スクールバスの活用も可能だと思うので今後検討していく方向での計画となっている。
委員 (地域住民の代表)	地域主体でやっていくというが、負担の方が多く補助がないとやっていくことができない。
事務局	どのような支援が各地域において良いものになるのか、今後議論して計画を作成したい。
委員 (地域住民の代表)	この会議においては、各地域の実情よりも市全域の交通について議論していくことが大切である。
委員 (地域住民の代表)	中長期に渡って交通施策を考えたときに、若者の動きが非常に大事になる。ぜひ若者の状況を分析して施策を考えてほしい。
会長	パーソントリップ調査など色々なデータがあるので、分析して今の公共交通の課題点を見つけてほしい。
委員 (地域住民の代表)	P. 27 のスケジュールが検討になっているが検討は前倒しで行い、実施する方向でお願いしたい。また P. 26 の地域主体型交通（無償運行）とあるが、保津町で 500 円なら負担できるという意見があったように実費相当、ワンコイン程度を負担する運行も考えられるのではないかな。
事務局	検討というのは、今後、各施策を実施する際に公共交通会議で協議をしていくということである。 地域主体型交通では保津町や東別院町で取り組んでいるものを発展させたい。
会長	無償という言葉は、わざわざ書く必要はない。
事務局	このご意見をもとに、もう一度整理する。
会長	現在の公共交通とミスマッチしているところを、どのようにして埋めていくのかが大事である。地域の課題を見て、上手くいっていないものを確認し議論していく必要がある。 デマンド交通については成功例も少なく慎重に考える必要がある。 バス停や乗り方が分からない人が多いので、バス利用者または高齢者を対象にバスの乗り方を教える必要がある。よりバスを使いやすくする必要がある。 外出することで生活の質が良くなる結果があるため、そういうデータを使って、きっかけ作りをしてほしい。
事務局	デマンド交通は現行のルートで走る。空のバスが走っていると言われることがあるが、そういったことがないようにしていきたい。 バスの利用促進に向けて、ノーマイカーデー等をつくりたい。

以 上